

囲碁ボール

マット上で五目並べを行うスティックゲーム。

写真



起源

・「碁の神社」がある兵庫県丹波市柏原町かいばらで生まれた競技。

人数

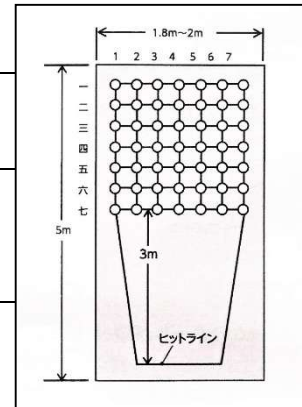
・1人対1人、2人対2人、3人対3人が基本的な対戦方法。
・変則的な人数でも競技できる。

場所

・原則、室内に囲碁ボールマットを敷いて行う。
・地面が平らであれば、屋外でも可能。
・1コート車1台分のスペース

進め方

- ① 選手はヒットラインに集合し、ジャンケンで先攻を決める。
- ② 勝ったチームが先行で、黒ボールを使う。(最後の局まで)
- ③ ヒット (スティックでボールを打つこと) は交互に行う。
- ④ 1局 (20個のボールをヒットし終えること) が終了したら、アウトボールを除き点数を数える。
- ⑤ 次の局は、前の局で得点の高いチームが先攻となる。(同点のときは前の局と同じチームが先攻)
- ⑥ 1試合は5局の総合計。ただし時間は1時間30分。(終了時刻になった局で試合終了)

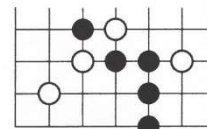
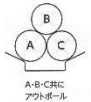


勝敗の決め方

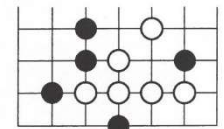
得点

- ・1局終了後、目(穴)に正しく入っているボールをセーフボールとして、このボールを「ライン得点」「ポイント得点」で計算する。
- ・ボールが縦、横、斜めのいずれかに3つ以上並び、「ライン得点」となる。並んだ数を「目(もく)」といい、できた組数を「連」という。6目以上はライン得点が無効となり、ポイント得点のみとなる。
- ・いずれかの目に停止したボールの数が「ポイント得点」となる。自チームのボール10個すべてがいずれかの目に入った場合はポイント得点10に加え、ライン得点の「5目1連」が与えられる。

【マット目の断面図】



黒は3目2連、白は3目1連



黒はライン得点なし、白は4目1連と3目1連

勝敗

- ・全局の中で数の多い「目」をとっているチームの勝ち。(6目以上と2目以下は目にならない。)
- ・「目」が同じ場合には、「連」の多いチームが勝ち。
- ・「目」も「連」も同じ場合はその下の「目」を同様に判断する。
- ・すべてのライン得点と同じ場合、ポイント得点の高い方が勝者となる。
- ・ポイント得点も同じ場合は、いずれかの局で最高のポイント得点のあるチームが勝者となる。
- ・さらに同点の場合は、ジャンケンで決める。

その他

- ・ヒット時にスティックが触れることができるのは1回限り。
- ・ヒットラインの幅より外でヒットしない。ボールはヒットラインの外に置く。
- ・ヒットしてマット外に出たボールは、アウトボールとなる。
- ・ヒットしたボールがすでに停止しているボールに当たっても反則とならない。

